

京都府内で赤ちゃんの育ちのサポートにかかわる皆様へ

新生児から首がすわるまでの赤ちゃんの だっこを伝える人になろう

「赤ちゃんを迎える家庭の方」「赤ちゃんを育てている方」「首がすわるまでの赤ちゃん」などによく出会う支援者の皆さんに向けての講座です。
より具体的に、より分かりやすく、赤ちゃんのだっこを中心としたお世話の動作を伝えられるようになりませんか？
少人数で一日かけてしっかり学び、次の日から現場で活かせることを目的としている講座です。
お申込みお待ちしております。

2024 年	2024 年	2024 年
6/14 金	6/15 土	6/16 日
10:00 受付 10:15 開始 16:00 終了	10:15 受付 10:30 開始 16:15 終了	10:00 受付 10:15 開始 16:00 終了
宇治市・平和堂 100BAN 店 協力 NPO 法人子育てを楽しむ会	舞鶴市・西市民プラザ 協力 NPO 法人ひとまわり	宇治市・平和堂 100BAN 店 協力 NPO 法人子育てを楽しむ会

同じ内容にて開催いたします。詳しい会場の説明は裏をご覧ください。

参加費：10,000 円

定員：8 名（各会場）

対象 子育て支援関係者、保育関係者、助産師、保健師、産後ケア、他この講座を受けてみたい方で、具体的に活かして行く現場のある方。学生も可
※聴向けの講座ではなく、支援する人が伝え方をマスターする講座です。

申込：フォームからお申し込みください。 <https://form.os7.biz/f/b0691c2d/>

※先着順より、申し込み理由を優先する場合があることをご了承ください。

保育体制があれば参加できそうな方はご相談ください（1日2000円／1人予定）

主催：お問合せ先

子育ての文化研究所 〒611-0031 京都府宇治市広野町寺山45-5

代表 朱まり子 / 事務局 池 幸子

<http://www.kosodate-bunka.jp/> E-mail: info@kosodate-bunka.jp



ホームページ
見よう！

京都府内で赤ちゃんの育ちのサポートにかかわる皆様へ

新生児から首がすわるまでの赤ちゃんの だっこを伝える人になろう

「赤ちゃんを迎える家庭の方」「赤ちゃんを育てている方」「首がすわるまでの赤ちゃん」などによく出会う支援者の皆さんに向けての講座です。
より具体的に、より分かりやすく、赤ちゃんのだっこを中心としたお世話の動作を伝えられるようになりませんか？
少人数で一日かけてしっかり学び、次の日から現場で活かせることを目的としている講座です。
お申込みお待ちしております。

2024 年	2025 年
11/23 土祝	1/19 日
10:15 受付 10:30 開始 16:15 終了	10:15 受付 10:30 開始 16:15 終了
宇治市・平和堂 100BAN 店 2F 協力 NPO 法人子育てを楽しむ会	宇治市・平和堂 100BAN 店 2F 協力 NPO 法人子育てを楽しむ会

同じ内容にて開催いたします。詳しい会場の説明は裏をご覧ください。

参加費：10,000 円

定員：8 名（各会場）

対象 子育て支援関係者、保育関係者、助産師、保健師、産後ケア、他この講座を受けてみたい方で、具体的に活かして行く現場のある方。学生も可。
※聴向けの講座ではなく、支援する人が伝え方をマスターする講座です。
※興味はあるけれども自分が対象か心配な方はご連絡ください（090-2703-5207 サコまで）

申込：フォームからお申し込みください。

<https://form.os7.biz/f/b0691c2d/>

※基本先着順ですが、場合によりお申し込み理由を優先する場合があることをご了承ください。

保育体制があれば参加できそうな方はご相談ください（1日2000円／1人予定）

主催：お問合せ先

子育ての文化研究所 〒611-0031 京都府宇治市広野町寺山45-5

代表 朱まり子 / 事務局 池 幸子

<http://www.kosodate-bunka.jp/> E-mail: info@kosodate-bunka.jp



ホームページ
見よう！



よしだ あつこ
講師 吉田 敦子さん

1983年 東京大学医学部附属産科助産学校卒業
大学病院勤務
1986年～1988年 青年海外協力隊員としてアフガニスタンのマラウィ共和国へ派遣 帰国後、都立病院勤務
1993年 東京府世田谷区にて出張専門助産所を開院
2011年 NPO法人 母子フィジカルサポート研究会 代表理事に就任
2014年 一般社団法人 赤ちゃん歯科ネットワーク 相談役に就任
2016年 公益社団法人 東京助産師会 世田谷目黒地区分会役員に就任
助産師・新生児科助産師・産科助産師・不妊相談員・性教育講演などの母と子どもの整体を学ぶ。女性と子どもの姿勢と発達をサポートをライフワークとして、母と子の整体サロンMommy & Baby主宰。
■著書
「こころすくすく」(絵本)バイ・インターナショナル社 (2022)
■共著書
「新産おなかにいるときからはじめるべびケア」合同出版 (2018)
「イラストと動画で学ぼう！人間発達学」 診断と治療社 (2023)
■特長
「赤ちゃんに快活なだっこ考えました」 クーヨン (2024)

これから赤ちゃんを迎える方へ



この動画、どうぞ

この動画は、産前産後の方々に「知りたいこと」「知っておいた方が良かったこと」を聞いた。助産師さんや子育て支援の関係の方に「伝えたいこと」などを事前に聞き、今回企画から関わってくださった吉田敦子さんと相談を重ね作り上げた。
赤ちゃんも頼もしい人柄を持った一人の人。育児の方法はその親子それぞれですが、少しでも子育てのお役に立てばと思っています。お時間があるときにゆっくりとした気持ちで見てください。



制作：子育ての文化研究所

ACCESS

宇治市・平和堂 100BAN 店 2F

京都府宇治市広野町西側100

【駐車場】

平和堂100BAN店契約駐車場（近所に2軒）

本会車で90分無料になります。

【最寄り駅】

JR奈良線 新田原駅徒歩2分

近鉄奈良線 大久保駅徒歩4分



講座の内容などについての開催会場へのお問合せはご連絡ください。

講座開催のいきさつ

NPO 法人母子フィジカルサポート研究会の代表、助産師の吉田敦子さんは、数年前から、当研究所の講座の講師や、昨年も「新生児から首がすわるまでのあかちゃんのだっこを一緒に学びませんか」というタイトルで、京都府内4か所で研修会の講師をひき受けてくださり、支援者向けの講座を実施してきました。また、支援者にとっても親にとっても見本になる動画として、akachan.douga というインスタグラムのサイトも、吉田さんの動画で立ち上げました。しかし、受講後に、実際に初めて親になる方にお伝えしようとする、自信をもって伝えるところまではたどり着けませんでした。

そこで、今年度は、「実技を確実に伝えられる支援者になる」を到達目標にして少人数での開催に取り組むと共に、一人ずつが確実に習得できるよう、人形やタオルなどの実習用具をそろえることを意識して取り組みました。本来8名の参加者のところ若干多くなる日もありましたが、満足度が高く、“学んだことが次の日からすぐ役立つ”講座となりました。



講座の様子

- 生まれたてのあかちゃんの状況
- 発達について
- 胎児の状況
- 妊娠中の母体のカラダ
- 母体、産後のカラダのケア
- 生まれたばかりの赤ちゃんの姿勢とだっこについて
- だっこ、抱っこ以外の関りについて
- 抱き上げ方の実技
- 下ろし方の実技





- 赤ちゃんをおくるみでくるむ
- 素手のだっこ、グッズを活用しただっこ



- 抱きやすいカラダになるための簡単な体操



● 支援の場におけるサポートを考えるグループワーク



6/14 参加者 8人

開催地 宇治市 (NPO 法人子育てを楽しむ会の自主活動スペース サロン楽)



6/15 参加者 8人

開催地 舞鶴市 (西市民プラザ)



6/16 参加者 8人

開催地 宇治市 (NPO 法人子育てを楽しむ会の自主活動スペース サロン楽)



11/23 参加者 9名

開催地 宇治市 (NPO 法人子育てを楽しむ会の自主活動スペース サロン楽)



1/19 参加者 10 名

開催地 宇治市 (NPO 法人子育てを楽しむ会
の自主活動スペース サロン楽)



参加者の声より

- 実際に赤ちゃん人形を使って抱き方を教わることで、自分で抱き方のポイントを体験出来たことが良かったです。早速広場で赤ちゃん連れのお母さん達と抱き方寝かせ方の話をする事が出来ました。まだ個々の育ちまで汲み取る力はありませんが、真ん中を意識する体の使い方、お母さん達の体のストレッチなど、少しずつ必要な方に伝えて行けたらと思っています。
- 「抱っこ」と一言で言っても、赤ちゃんの身体も大事、抱き手の身体も大事。「抱っこ」は赤ちゃんを運ぶ手段ではないことを再確認しました。赤ちゃんの身体は、奥深くて不思議ですごい!
- 赤ちゃんの快・不快はとっても地味だけど、しっかり表現しているというところで、「相手のことを知りたい」と思って観察することが大切なんだなと思いました。また、心地よい抱っこをしたいけれど体が痛くて抱っこできない母の気持ち、とてもよくわかるので、赤ちゃんの観察だけではなくお母さん(保護者)の観察もして、心も体も楽になってもらえるような支援をしていきたいと思います。
- 赤ちゃんに『どうですか?これでいいですか?』と聴きながらすすめる。寝ている赤ちゃんの身体を緩めてから抱き上げる。パーツをまとめることを意識する。どれも基本的なことだけど、見落としていたし、お母さん達に伝えていませんでした。また、現代の妊婦さんの胎内環境や抱く人の姿勢なども視点に入れて赤ちゃんの姿を見ないといけない、や、私が習ったり経験したことが今のお母さんと共通認識として伝わりにくい、という話は、ずっと自分の中でモヤモヤしてたことを整理する道標になりそうです。
- 「正しい」よりも「気持ちいい」かが大事ということ、それが赤ちゃんや抱く人のコンディションでも変わるのですが、実際1日赤ちゃん(人形)を抱っこすることで実感できました。利用者の方に自信を持って伝えるためには、支援者はいろいろな知識が必要で、それが自分に身についていることが大切だと感じました。個性のある利用者さんや赤ちゃんに、その人に合ったことを、良いタイミングで、その人に合った伝え方で伝えることができる支援者になりたいと思いました。
- 今どき、抱き方を、ここまで丁寧に伝える必要性がよく理解できました。最後のグループワークでは、支援者の立場で、どう伝えていくのか、様々な見方、考え方を共有できて良かったです。
- 主催者側で赤ちゃん人形やおくるみ等も準備して頂いたので、手持ちの人形やタオルよりより本当の赤ちゃんに近いお人形やより使い勝手のよい布の肌触り等、全てが深い学びとなりました。吉田さんから毎回学ぶ赤ちゃんに「いかがですか?」と聞いてみましょう。という姿勢は、支援者として一番大切な心構えとして、赤ちゃんはもちろんのこと、支援の場を訪れる養育者に対しても通じることとして常に自分ができているかどうかを確認するようにしています。
- よくあるお母さんの困りごとの対応も共感するだけでなく赤ちゃんの体の様子から遊びを取り入れての動かし方など今できることをお伝えすることも大切だと学びました。
- 赤ちゃんが起きないように寝床に戻すのがとても難しかったので練習したいと思いました。

- 最後の事例検討が、まさに子育てひろばで日々出会う内容で、意義深い話し合いになりました。
- これまで抱っこの方法や抱っこの形にとらわれ過ぎていたかも。色々な体の赤ちゃんがいるのだから、色々な抱っこがあっていいと思いました。まずは赤ちゃんの体を感じて、赤ちゃんとやりとりすることが一番ですね。抱っこは子どもの発達支援のはじめの一歩だと思っています。まとまりにくい体をまとまりやすく、そして動きやすい体へと促すことは、その後の発達の土台づくりです。子どもたちの育ちのために、今回のような学びの場が広がっていくといいなあとと思いました。
- 悩みを抱えた母子に初めにかける言葉や様子を注意深く観察するなど、改めて大切だと感じました。こちらからすると明らかに不適切なことでもどうしたら傷つけず気がついてもらえるか、などワークで勉強できてとてもためになりました。子どもの発達や困りごとに対して親は常に責められていると感じることが多々あるように思います。せめて、支援者は寄り添って気持ちを一緒に考えるというスタンスありたいと思っています。気持ちを前向きにするため、先生に教わったストレッチなど取り入れて体を緩めるところから、取り組んでみたいと思いました。
- 妊婦さんの骨盤の形が旧来とは違ってきており、子育てにしんどさを感じやすい身体になっていること、その変化をふまえた上での働きかけ方の工夫が必要なこと、赤ちゃんの寝た姿を見て、リラックスできる姿勢になるよう、首や背中などにタオルをあてたり、苦手なほうの腕での横向き抱っこをして、抱く人と抱かれている赤ちゃんの姿勢をよく観察することも大事なことです。
- 心地良い抱っこの方法はもちろん勉強できましたが、今の赤ちゃんやお母さんの状況なども考えさせられました。お母さんが良いと思ってやっていることと同じように、私自身も思い込まずに、様子を観察することが大事だと改めて思いました。
- 抱っこの方法だけではなく、お母さんとの関わりの中で情報収集や問題の明確化、目標設定、実施方法など、支援者としてどう対応するかなども学べて、普段の仕事に活かせそうな内容が盛りだくさんでした。
- 抱っこをする時、肩に力が入ったり腕の位置が定まらなかったりすることが多いですが、今日は「上手く抱っこができたかも」と感じることができました。おくるみの使い方も布の端っこをどのように始末するのか疑問に思っていたのですが、コツがつかめました。
- 新生児の感情は、興奮・快・不快である。そのため、支援の際に大切なことは、「気持ちいいですか？いかがですか？」まさにその通り！と腑に落ちました。一人ひとり違って、マニュアルもなく、目の前のお母さん・赤ちゃんに合わせた支援が改めて大切だと感じました。おくるみを用いた、実践は大変参考になりました。おくるみ抱っこ紐はぜひ今後の支援の中でアドバイスしていきたいと思いました。
- 実際にタオルやおくるみで赤ちゃん人形をくるんだり、自分に巻いたりして、心地よさや抱きやすさを感じることができ、現場での託児やお母さんたちとの関わりの中ですぐにできる手技を増やすことができました。お母さんたちは、飲ませることや寝かせること、スキンケアなどの「どうやったらいい??」は探しているけれど、赤ちゃんや自分の「快・不快」に目を向けている人はあまりいないように感じます。やり方が合っている・合っていないではなく、心地よい心地良さそうじゃないが大事だという視点が、とても大きな学びでした。赤ちゃんが心地よく感じている様子を、言葉にしてお母さんに伝えること、それからお母さん自身も試してみて心地よいなあ、これなら続けてできるなあと感じられることを一緒に動いたり考えたりしながら見つける手伝いをするのを、していきたいと思いました。
- おきゃあと生まれた瞬間からの赤ちゃんとの関わりを、分かりやすく詳しく、からだ、心、環境など多方面からお話して下さりとても腑に落ちました。聞く人がこれからアウトプットしていく前提を意図して下さっているのを感じ、とても感謝しています。